

遠見山荘からセミナーハウスへ

体育会・応援団創立 30 周年記念誌「翔」第 2 号（平成 3 年 5 月発行）寄稿文

第 11 代幹事長 井上和男

15 年前の昭和 50 年、創立 15 周年記念誌「翔」に遠見山荘建設回想記を寄稿してから早くも 15 年の年が経ってしまった。小生も白馬の地に定住して 16 年の年が過ぎ、夢多く山荘建設に熱中していた紅顔の青年も、不惑を過ぎた中年になりつつある。今回の 30 周年記念誌にその後の経過回想を掲載して、山荘及び白馬の変遷を書き続けてみたい。

昭和 48 年秋に体育会創立以来最大の事業となった遠見山荘が完成し、その後、紆余曲折しながらも、小生がその管理運営を手がけだしてから、毎年その設備の不備を提起していた。完成より 4 年経った昭和 52 年、ようやく大阪市より予算が認められ、増築することになった。当初の限られた資金内ではできなかった個所を改修し、また 2 階に部屋を新設するなど、既存の建物を十分に生かしながら、増築を進めた。総工費 1000 万円の予算であったが、あちこちと手を入れると、とてもそれだけの金額では不足してしまい、後日の別途工事などに組入れながら、ようやく完成にこぎつけられた。この改修工事により、なんとか 30 人規模の宿泊が可能になり、クラブ合宿やゼミ・クラス合宿に利用できるようになった。体育会の山小屋から市立大学の山荘と言えるようになったのを機会に、建物の名称も遠見山荘から白馬セミナーハウスと変更することになった。

その後、昭和 55 年、ポート祭で当時の大島大阪市長にお会いする機会があり、また学生部より山荘の増築報告がなされたりして、市長が信州の山荘の件を知られることになり、「既存の 600 坪では狭すぎる、少し買い増したらどうか。」という提案がなされた。折しも大学創立 100 周年記念事業が行われており、運よくその一環に組み入れられ、急遽 5000 万円の資金をいただき、隣接地 1200 坪あまりを購入することができた。現在総面積 1800 坪の土地があり、この付近でも有数の広大な敷地になっている。ただ、その後 10 年を経た現在も、増築案はあるのだが、手つかずのままになっているのは残念である。関係諸氏の方々もその有効利用の方法を、ぜひとも考えて頂きたい。

遠見山荘の建った当時は、山中の一軒家だった当地も、スキー場や別荘分譲地が開発され、16 年を経た現在は瀟洒なペンションや別荘が立ち並ぶ一大リゾート地帯に変わり

つつある。当地白馬神城は 1998 年の長野冬季オリンピックの候補地に選ばれ、ノルディックの会場予定地まで徒歩 10 分位、またジャンプの会場へは車で 10 分位で行けるといふ脚光をあびる土地に変わりつつある。本年 6 月の IOC 総会で、世界数か所の候補地の中から決定されるのであるが、長野に決まれば、当地は相当なフィーバーとなることだろう。これからの乱開発に懸念を持ちつつ、これまでの様変わりを回想しながら、今後の発展を考える此の頃である。

名 称 大阪市立大学白馬セミナーハウス

所在地 長野県北安曇郡白馬村神城 22203

電 話 0261 (75) 2931